

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 4年 4月 16日

事業所名
共生型福祉サービス事業所タツチップス

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	8	0	十分なスペースを確保している。	十分なスペースを活用して、質の高いサービスの提供を行っていきたい。
	2	職員の配置数は適切である	6	2	職員配置を個々に合った支援が出来るように見直している。	社内研修や外部の講師の方の講義を研究に取り入れ安定して就業できる環境や知識の向上を図っている。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	7	1	設備等については配慮して建築している。	現在の職員が安定して就業が続くよう、報連相が進むような雰囲気づくりを行っている。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	7	1	清掃や換気を行い、子供たちが快適に過ごせる環境づくりを行っている。	備品や遊具で子供たちが怪我無く安心して過ごせるようにその都度点検を行っている。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	5	3	毎朝の朝礼や会議を通して、改善に努めている。	職員全員が日々の業務の中で意識して取り組むための、職員の能力の向上のための取り組みを行う必要がある。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6	2	保護者の意向を汲み、職員間のコミュニケーションの充実を図っている。	保護者とのコミュニケーションの質を向上させる為、会議等で話し合い業務改善に繋げている。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6	2	ホームページで公開している。	関係者全員がホームページの情報を把握できるよう取り組み改善を行っていく。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	4	4	現在行っていない。	外部評価については今後具体的に検討し業務改善に繋げていく。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6	2	定期的に研修を行い職員の資質の向上を行っている。	職員の専門性を活かして研修などを行い、外部研修も積極的に行っていく予定。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	8	0	現在すべての利用者のアセスメントを見直している。	アセスメントの見直しを行いながら、引き続き個別支援計画の作成を計画的に行っている。
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7	1	職員間で周知し、状況を把握するようにしている。	会議などで子供の状況を把握し、職員同士で情報や状況の共有を行っている。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	6	2	全ての個別支援計画の見直しを計画的に行っている。	アセスメントの見直しを行いながら、個別支援計画の作成を計画的に行っている。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	7	1	支援計画の見直しが必要な際は会議等でその都度職員間で話し合いを行っている。	職員がそれぞれ利用者の課題を把握し計画に沿った支援が行えるように支援記録に課題を記載している。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	5	3	職員会議や日々の業務の中で取り組んでいる。	現在行っているプログラムを個々に合った質の高いプログラムを計画できるように検討中。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7	1	活動後に見直しを行い、固定化しないようにしている。	利用者の障害程度や健康状態を反映し、利用者がより楽しく成長できるように取り組んでいく。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	8		日々対応している。	実施している内容を職員間で共有し、状況に応じて見直し確認を行っている。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	3	5	朝礼にて支援の内容や役割分担について確認している。	今後も継続してそれぞれの職員の取り組みの充実、意識共有を図るようにしていく。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	3	5	その日の課題はその日の内に解決するようにしている。	送迎時間がバラバラなので当月の打ち合わせは参加できる職員で行っている。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7	1	スムーズに業務が行えるよう検証・改善を行っている。	児童と直接関わる時間が増えるように記録様式の見直しを行い、不備があればその都度改善を行っていく。
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	8	0	計画的に行っている。	モニタリングの時期が分かりやすいように表でまとめ職員間で共有できるように可視化を行う。	

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8	0	実施している。	基本的には児童発達支援責任者が参加しているが、子どもの状況や実情に詳しい職員等も参加している。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	4	4	必要に応じて随時連携している。	今後も継続して行っていく。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	6	2	必要に応じて随時連携している。	今後も継続して行っていく。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	5	3	保護者からの情報が不十分な場合は保護者の許可を得て行っている。	現在は密に連絡を取る必要がある利用児童はいないが、医療的ケアについては保護者の許可を受けてうえで、主治医や協力医療機関等と連携の充実を図っていく。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5	3	事前に情報を収集している。	今後も様々な施設や学校などと連携を行い、情報共有や相互理解を図り、よりより支援が出来るよう目指していく。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5	3	学校からの情報については送迎時以外にも連絡を取っている。	今後も学校との連携や情報共有を行い、子供や保護者が安心して利用できるように内容の充実を図っていく。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	6	個々の児童の状況や課題について連携している。	今後は計画的に研修等に参加し、情報共有を行っていく予定である。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	3	5	現在検討中である。	地域の実情を把握したうえで、活動の機会を作っていくよう、活動する予定である。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	0	8	現在は参加できていない。	積極的に参加できるよう働きかけを行っていく。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5	3	送迎時や、必要に応じて保護者への連絡を行っている。	職員間で共有し共通理解が深まるよう、取組の強化を図っていく。
保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	3	5	困難を抱えている保護者に対しては、積極的に働きかけている。	保護者の意向を汲み状況に応じて支援等を継続的に行っていく。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7	1	理解が不十分な場合は補足して説明する働きかけを行っている。	契約時に運営規定、支援内容、利用者負担等丁寧に説明を行っている。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	8	0	状況に応じて個別支援の見直しなどを行い、ニーズに合った支援が行えるようにしている。	必要に応じて保護者や子どもの意見を聞き個別支援計画の見直しが必要な際はその都度行っている。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7	1	個々の状況に柔軟に対応している。	必要な助言と支援を行っていくための、知識や情報の収集を行っていく。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	8	年に1回イベントを開催し、連携の支援を行っていたがコロナ禍の為自粛。	今後の状況により、保護者が参加できる活動など計画中。
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	8	0	保護者や子どもの意向を確認し柔軟に対応を行っている。	職員体制を見直し相談や申し入れがあった際は迅速に必要な支援を出来るように整えている。今後も状況に応じてその都度体制などを見直していく。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	1	7	SNSを活用して活動などを発信している。	SNSを活用して活動などを発信している。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	7	1	保管場所などや、取り扱いを会議等で周知している。	個人情報については、職員全体で意識して十分注意して取り扱う。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7	1	個別の状況を判断した情報伝達を行っている。	利用者、家族ともに意思疎通・情報交換を心がけて行っている。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	8	地域との関係については、閉鎖性がないよう配慮を行っている。	事業所の行事に地域住民を招待することで開かれた事業運営とは考えていない。事業所から地域行事への参加を通して開かれた事業運営を目指したいと考えている。

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	7	1	現状に合ったマニュアルを作成中。	マニュアルの再編集を行い、職員や保護者に対しても周知をしていく予定。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7	1	年に2回の避難訓練を計画中。	災害時に備え連絡系統を整え、消防や警察との連携を図り、訓練を計画的に実施していく予定。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	8	0	投薬の確認を行い薬の管理を行っている。	利用者の服薬の状況を確認し、薬が変更になった際にはその都度状況の確認を行っている。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	8	0	主に保護者からの情報に対応している。	医師の指示書が必要な児童の場合は、嘱託医へ指示書の依頼を行い指導や助言をうけていく。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8	0	ヒヤリハットの記録を行い事業所内でしている。	ヒヤリハットや事故報告などがあった際には職員間で話し合い、見直しを行い、周知徹底をしていく。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8	0	研修会や勉強会を行い虐待に関する知識や対応を話し合っている。	虐待の正しい知識や対応を学び、利用者にとって過ごしやすい環境が作れるように日々の業務を行っていく。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	7	1	保護者への説明の上で、承諾書をとっている。	契約の際、やむを得ず身体拘束を行うかについて必ず説明を行っている。